

川田家住宅について

1 概要

川田家住宅は、後に三越の大番頭を務めた川田盛蔵が建築した、主屋、炊事場及び風呂、石塀及び板塀の2棟1基からなる大正時代後期の建造物群です。

主屋は、明治時代後期頃に現在の土浦市藤沢で建築された建物を、大正8年に移築したものと伝わっています。移築に際して、農家建築から都市的な新しい生活様式に適した住宅へと大幅な改修がなされており、付書院周辺の繊細な造作や、装飾的な木材の使い方等に特徴が現れています。造形の規範となっているものとして、登録されます。

炊事場及び風呂は、主屋の奥に所在する大正時代後期建築の建物です。小型ながら当地としては珍しい洋風の外観の建物で、モルタル塗りで黄土色に仕上げられた外壁や、急勾配の切妻屋根、外壁に並ぶ縦長窓等が特徴となります。内部は炊事場と風呂に分かれており、炊事用の窯の熱で風呂を沸かすように作られています。風呂に設けられた仕切り壁にも、洋風の意匠が認められます。国土の歴史的景観に寄与しているものとして、登録されます。

石塀及び板塀は、敷地の東側を区画するもので、大正時代後期の築造です。石塀の道路に面した南側は御影石積、北側を大谷石積とし、その北側に続く板塀は大和塀としています。国土の歴史的景観に寄与しているものとして、登録されます。

2 登録の内容

(1) 所在地つくば市北条字古城 97

(2) 所有者個人

(3) 登録物件

①主屋 明治後期建築/大正後期移築、木造平屋建、瓦葺、建築面積 139 m²

②炊事場及び風呂 大正後期建築、木造平屋建、瓦葺、建築面積 12 m²

③石塀及び板塀 大正後期建築、石塀:石造、延長15m、板塀:石造及び木造、延長26m

3 見学について

- ・通常は非公開です。
- ・北条地区のイベント等に際して一般公開の機会があります。

4 北条地区の文化財建造物

北条地区は江戸時代後期以降、地域の中心として発展、近世・近代の古建築が多く残っています。国重要有形文化財として旧矢中家住宅1件があり、国登録有形文化財としては、今回登録されることとなった川田家住宅のほか、宮本家住宅（店蔵など8棟）、旧常陸北条郵便局（1棟）、旧田村呉服店（ミセ蔵兼主屋など4棟）の3か所があります。それぞれ、一般公開やコンサート会場、喫茶店、町の案内・休憩所などとして活用されています。

川田家住宅



主屋 外観



主屋 土間から前座敷・中座敷・奥庭を望む



主屋 奥座敷の付書院周囲の細工



主屋 ケヤキ1枚板の縁板



炊事場及び風呂 外観



炊事場及び風呂 内部

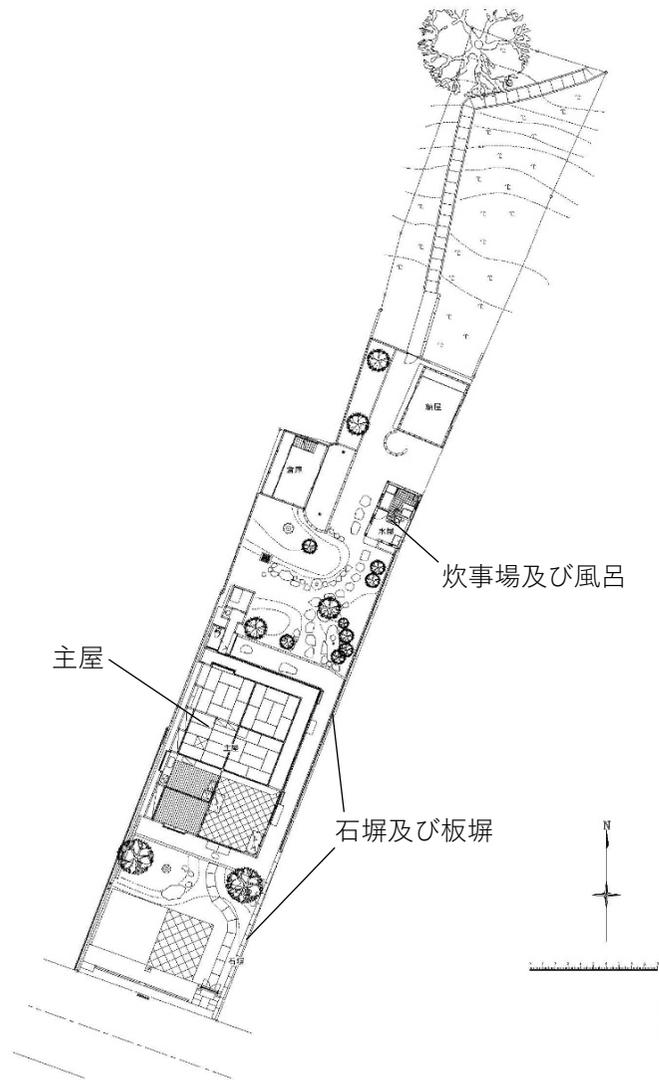


風呂の仕切り壁

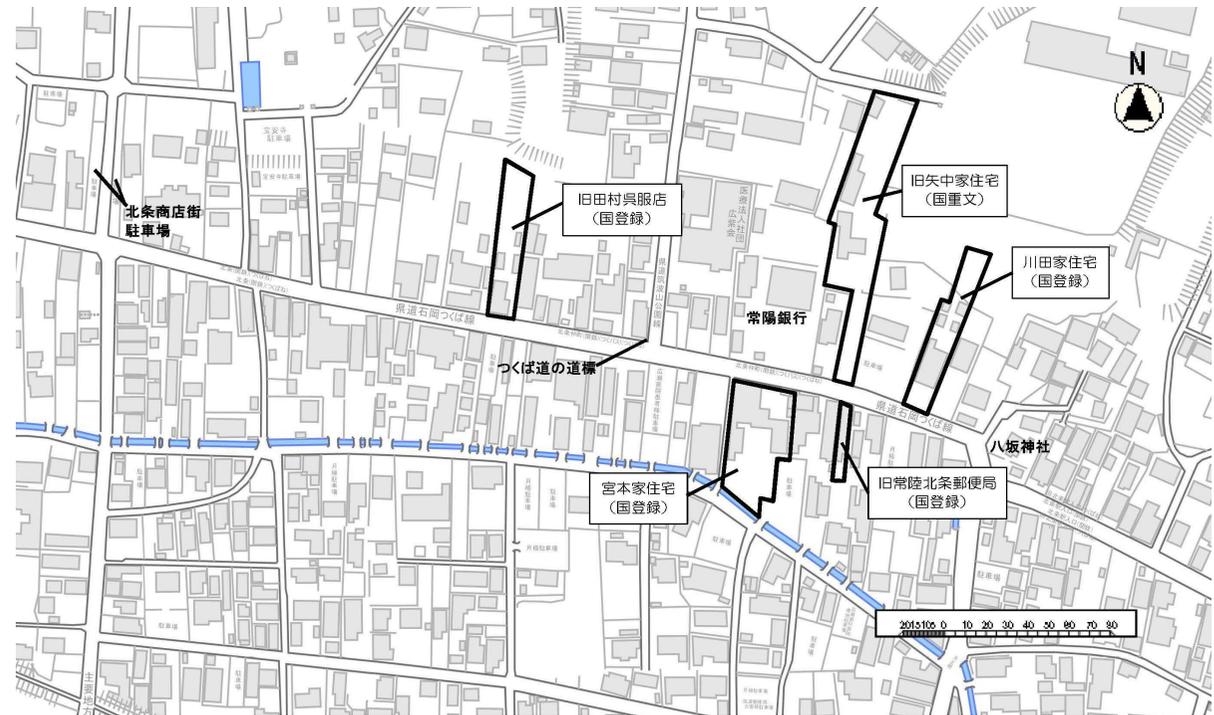


石塀及び板塀

川田家住宅



配置図



つくば市北条の文化財建造物